

ニート等の若者の職業的自立支援

概要

地域若者サポートステーション事業

《趣旨・目的》

ニート等の若者の自立を支援するためには、各人の置かれた状況に応じて個別・継続的に包括的な支援を行うことが必要である。このため、地方自治体との協働により、地域の若者支援機関からなるネットワークを構築し、その拠点として「地域若者サポートステーション」を運営している。

- ニート等の若者の自立を支援するため、地方自治体との協働により「地域若者サポートステーション」（通称：サポステ）を設置（19年度 50か所→20年度 77か所→21年度 92か所→22年度100か所）
- 若者の置かれた状況に応じた専門的な相談、地域におけるネットワークの中核として各支援機関への適切な誘導の実施

※のべ来所者数：144,171名（19年度）、202,112名（20年度）、273,858名（21年度）
 ※利用開始から6か月経過時点の就職等進路決定者の割合：26.8%（19年度）、28.0%（20年度）、32.8%（21年度4～9月登録）

《22年度事業計画（概要）》

① 相談支援事業（拡充）

支援対象者に対して当初の相談から自立支援まで一貫した支援を行うとともに、地域の若者支援機関によるネットワークを活用し、必要な支援が継続的に受けられるよう、専門機関への誘導（リファー）、支援状況のフォローを行う。

また、訪問支援担当のキャリア・コンサルタント1名を配置し、進路の決まっていない高校中退者等を対象とした自宅等への訪問支援（アウトリーチ）を新たに実施する（50か所）。

② 継続支援事業（新規）

サポステの自立支援プログラムの一環として、高卒学歴・高卒相当学力取得を当面の目標に設定する者を対象に、学び直し（定時制・通信制高校や高認試験の受験等）に向けた学習支援や進路相談等を含む総合的・継続的支援を行う（5か所）。

③ 短期合宿型訓練事業（新規）

サポステの自立支援プログラムの一環として、特に生活面の基礎形成等が求められる者を対象に、おおむね1週間以内の短期合宿型訓練を行い、生活訓練等のプログラムを提供する（5か所）。

ネットワークを活用した若者の職業的自立支援の流れ

